

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に 向けた文化プログラムの取組と経過について

昨年8月に杉並区文化・芸術振興審議会にて策定した「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムの取組」の概要とその後の取組経過を以下のとおり報告する。

1 文化プログラムの取組概要

大会組織委員会は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「東京2020大会」という。）に向け、指針となる「アクション&レガシープラン」を策定した。

これを受けて区では、東京2020大会の文化面でのレガシー(遺産)を「未来へ繋がる感動や体験」と定義し、一過性の大きなイベントを行うのではなく、既存事業等への支援を強化・発展させていくことで、区民参加（アクション）を促していく。そして、子どもをはじめ杉並区に住む全ての人が「杉並区に住んでいて良かった」と感じることができると感動・体験の場の創出を目指してしていくこととした。

目標

- ①杉並が持つ文化・芸術・人材等の既存資源を活用し、新しい価値観・感動を生み出すことで、「SUGINAMI」を国内外へ発信していく。
- ②区内の文化・芸術に関する環境を整え、次世代を担う子どもたちに感動と体験の場を提供していく。
- ③文化プログラムへの支援を通じて、より多くの区民がオリンピック・パラリンピックに参加する機会を創出していく。

目標達成に向けた具体的な取組

- ①文化・芸術活動助成金事業の活用
- ②協働事業における和文化発信に向けた取組
- ③アートサポーターの育成
- ④交流自治体「南相馬市」との連携
- ⑤杉並の魅力国内外へ発信する取組
- ⑥教育部局との連携

2 取組経過

(1)文化・芸術活動助成金事業の活用…「取組」①

企画提案事業に新たなテーマ「レガシーの創出に向けた新たな文化芸術の創造～杉並から国内外へ文化を発信～」を追加設定し、3件の対象事業を決定した。

《主な事業》 第2回阿佐谷薪能（あさがや能・狂言の会）

5月18日（金）阿佐ヶ谷神明宮 能楽殿

【第1部】小学生能講座受講生発表会

【第2部】狂言「附子」、能「土蜘蛛」

出演：人間国宝・名誉区民 野村四郎氏ほか

(2)協働事業の和文化発信に向けた取組、教育部局との連携…「取組」②⑥

平成30年7～8月に、東京2020大会の2年前公認プログラムとして「和文化」をテーマに阿佐谷のまちを彩るアート展「BATA ART EXHIBITION（バタアート エクシビション）」を開催した。杉並第六小学校の児童が制作した作品を阿佐ヶ谷中学校の校庭に展示する等、教育部局とも連携して実施した。

※由来：「七夕（バタ）」×「川端（バタ）通り」×「道端（バタ）」

(3)アートサポーターの育成…「取組」③

平成30年5月～6月に「すぎなみ地域大学」にて全4回の講座を実施。19名が受講し、うち15名がサポーターとして登録を行った。

アートサポーターは、文化芸術活動助成金事業のモニタリングを実施し、鑑賞結果をレポートする等、区民の目による助成事業の評価を行った。

また、(2)のBATA ARTや秋に区内で行うアートイベントのサポーターとしての活用も図っていく。

(4)交流自治体「南相馬市」との連携、教育部局との連携…「取組」④⑥

平成29年11月に行われた「南相馬市子ども文化芸術交流事業」に、女子美術大学の学生ら12名と区内の小学生6名が参加した。南相馬市や市と交流のある自治体の小中学生42名と、市のシンボルである「馬」をテーマにした段ボールアートに挑戦し、文化芸術を通じた交流を深めた。

制作した馬の段ボールアートは、南相馬市役所等での展示を経て、今年6月に区役所で武者絵展と合わせて展示した。

今年も11月に区内の小学生3名が同交流事業に参加し、作品の制作を通じて、南相馬の復興をPRする。

(5)杉並の魅力を国内外へ発信する取組…「取組」⑤

杉並のクリエイティブなヒト・コト・モノを記録した小冊子「SUGINAMI ART CATALOGUE（英語版）」を制作し、区内の宿泊施設や日本橋にある「ふるさと情報コーナー」にて配布。

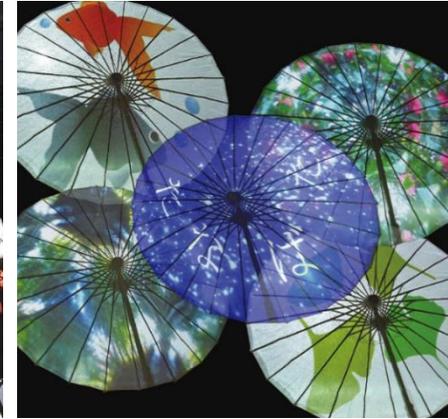
また、区役所中棟2階に、マスコットキャラクターとともにカウントダウンのディスプレイを設置し、東京2020大会に向けて機運を高めている。

<文化プログラム事業の様子>

①文化・芸術活動助成金事業の活用



②和文化発信に向けた取組、⑥教育部局との連携



③アートサポーターの育成



④交流自治体「南相馬市」との連携、⑥教育部局との連携



⑤杉並の魅力国内外へ発信する取組



Suginami Kokaido (Suginami Concert Hall)
 Suginami Kokaido, established as the hall with the best audio equipment in the Far East, opened in 1977. Renowned by many people, it was reconstructed half a century later in 2006. It has become the base for the Japan Philharmonic Orchestra, and gives many musical events for its disabled performers. While the concert hall there on the main stage and is a solid addition to the main hall, that will play the so-called the greatest piece of the world, Stravinsky, Beethoven, and Bachman, and the hall provides opportunities for supporting green art as a symbol of the culture of Suginami.

Address: 1 Chome-20-11 Kameji, Suginami, Tokyo 167-8586
 Phone: 03-6221-0461
 Website: <http://www.suginamiarts.or.jp/en/venue.html>
 Open hours: 10:00-18:00
 Closed days: Sun, Mon, Tue, Wed, Thu, Fri, Sat, Sun, Holiday
 Access: From Shinjuku Station, Chuo Line, Tojo Line, Chitose Line
 Fee: Free by request
 Facility: Main hall, 2nd hall, grand piano, 1 music studio, etc.
 Contact: info@equ11.or.jp or [03-6221-0461](tel:03-6221-0461)

